

包装資材を 購入したときは？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



新人さん：包装資材をプラスチックから紙に変えるそうですね。

先輩：そうだね。SDGs が採択されてから、環境に対する企業の意識が高まっているからね。

新人さん：はい。包装資材の脱プラスチックもそういった取組みの1つなのですね。

先輩：ああ、これからのビジネスに環境への配慮は欠かせないだろう。

新人さん：ところで、包装資材を買ったときの代金って、経理上は消耗品費でいいんですよね？

先輩：それはケースバイケースだよ。

新人さん：ケースバイケース？

○解説

「消耗品費」とは、事業活動のなかで使用することで消費される事務用消耗品・工場消耗品や、少額の工具・備品などの購入代金を処理する勘定科目です。

たとえば、事務用消耗品は販売や管理で消費される筆

記用具・コピー用紙など、工場消耗品は包装資材・油など、少額の工具・備品は台車・事務机などが例として挙げられます。

前述の事務用消耗品などは、理論的には、購入時に「貯蔵品」などとして資産計上し、使用の都度、「消耗品費」として費用に振り替える処理が好ましいです。

しかし、処理が煩雑になるため、購入時に「消耗品費」として費用計上し、期末時点で未使用のものを「貯蔵品」として資産計上する処理が一般的です。ただし、重要性の乏しいものは資産計上しなくても構いません。

また、每期ほぼ一定の量を取得し経常的に消費する場合、「貯蔵品」として資産計上せずに、「消耗品費」として全額を購入した年度の費用に計上できます。

さらに税務上は、耐用年数が1年以上で1つの取得価額が10万円以上の工具や備品は「工具器具備品」として固定資産に計上しますが、耐用年数が1年未満もしくは1つの取得価額が10万円未満のものについては、使用したときに「消耗品費」として費用計上します。▲

ケース1 包装資材を購入した場合

・購入時：包装資材50,000円（税別）を現金で購入した。

【借方】 消耗品費	50,000	【貸方】 現金	55,000
仮払消費税等	5,000		

・期末：棚卸をして、包装資材10,000円分が未使用であることがわかり、資産計上した。

【借方】 貯蔵品	10,000	【貸方】 消耗品費	10,000
-----------------	--------	------------------	--------

・翌期首：資産計上した未使用の包装資材10,000円分を振り替えた。

【借方】 消耗品費	10,000	【貸方】 貯蔵品	10,000
------------------	--------	-----------------	--------

ケース2 少額のパソコンを購入した場合

1台80,000円（税別）のパソコンを現金で購入した。

【借方】 消耗品費	80,000	【貸方】 現金	88,000
仮払消費税等	8,000		